

日中韓フォーサイト事業
中間評価（令和2（2020）年度採択課題）結果

日本側拠点機関名 東北大学(教授・加藤 寧)

研究交流課題名 AIを利用した次世代IoT技術及びサービスに関する研究

評価結果（総合的評価）	
	S 想定以上の成果をあげつつあり、当初の目標の達成が大いに期待できる。
○	A 想定どおりの成果をあげつつあり、現行の努力を継続することによって目標の達成が概ね期待できる。
	B ある程度の成果をあげつつあるが、目標達成のためには一層の努力が必要である。
	C 成果が十分にあるとは言えず、目標の達成が期待できないため、経費の減額または中止が適当であると判断される。
所見	
本課題では日中韓の3カ国のそれぞれにおいてAIを利用した次世代IoT技術及びサービスの分野で先端的な研究を進めてきたものである。事業開始時点でコロナ禍の影響があつたにもかかわらず、オンラインを含めた交流セミナー開催といったその困難を補完する取り組みが行われており、交流機会の創出を着実に実施している点が評価できる。今後の計画でも日中韓持ち回りのセミナー開催が計画されており、対面による交流が進み、より密な交流を通じて継続的な交流促進と研究ネットワークの構築が期待できる。また、博士前期課程の学生が博士後期課程への進学を決断した例も出ており、AI・IoT分野の若手研究者の充実に対する効果が出つつある。世界的に活躍している研究者が参画していること、日本側の参加研究者リストに若手教員のみならず大学院生も含まれていることから、今後、次世代の研究者を交えた研究成果とその発表にもつながるものと予想する。 一方で、具体的な共同研究等の取組に関して、コロナ禍の影響も考えられるが成果としての国際共著論文等の発表が現時点ではない点が懸念される。オンラインを併用したセミナーのハイブリッド開催などの工夫やより積極的な共同研究の推進により、共著論文、国際会議の共同発表などの成果の創出を期待する。	